



企業内集合教育のご案内

IN-HOUSE EDUCATION GENERAL GUIDE

ゴール・システム・コンサルティング株式会社

www.goal-consulting.com

ごあいさつ

日本企業の革新のためには、サプライチェーン、バリューチェーンといった一企業の枠を超えた、全体を通しての改革が不可欠です。このような状況の中で企業は、そこで働く人の能力を育成し、外に向かって開かれた体質を作りあげることが、成否の鍵を握っているのです。

ゴール・システム・コンサルティングは豊富なコンサルティングノウハウと提携先であるアメリカ・ベクター・ストラテジーズ社の質の高い教育ツールと合わせご提供することにより、効果的な人材育成と経営革新をお手伝いします。

制約理論を教育で展開するメリット

- 基本は考えること -

ゴールシステムでは自ら考え自ら動く事を重要視しています。自ら考え議論することによって、これから取り組んでゆく課題がどう位置づけられ、解決した場合には組織全体がどう変化するのが理解できます。実践によって自らの位置づけを明確にし「出来ること」と「出来ないこと」の峻別を行いその上で「どうすれば出来るか」を組織の知恵として考えることができるのです

かつての日本企業は一人一人の知恵が、企業全体のしたたかな競争力の源泉でした。管理者は、人間の感性・感情を尊重しながら職場のリーダーシップを発揮することにより、現場の活力ある組織風土を創りあげていったのです。

しかし、今日の不況下、かつての「考えるゆとり」を失っている状況が蔓延しているのではないのでしょうか。今こそ、「考え、学習する組織の構築」を行うべきときなのです。



ゴールシステムの研修はここが違う

豊富なオプション

お客様の研修ニーズに合わせてフレキシブルに対応いたします。モジュール化された基本プログラムのほか、お客様のニーズとご予算に合わせて、フレキシブルなオプションをご用意できます。

柔軟なカスタマイズ

ご要望に応じてヒアリングや予備調査（別途見積）の実施により、研修+コンサルティングのカスタマイズが可能です。

豊かな経験

専門ファームならではの実践経験豊かなコンサルタントが研修を行います、弊社コンサルタントは全員がジョナ21（思考プロセスアプリケーション）の資格認定者です。

実践型学習

座学研修を極力排して、体験学習、ゲームや実習の組み合わせで、理解を深めます

製造業だけではなく

製造業以外にも豊富な実績を持ち、思考プロセスを用いた組織開発や能力開発などの研修、プロジェクト管理のシミュレーション研修などさまざまな業種で採用いただいています。

アフターフォロー

研修、セミナーの企画立案・実施のみならず、フォローアップや研修成果測定、次ステップの提案まできめ細かい対応をさせていただきます。

ゴール・システム・コンサルティングは『夢をかたちに』をお手伝いします。

日本企業はガラス張りの経営を！

今必要なのは現場のムダ取りではなく、経営のムダ取り、誰もが分かるガラス張りの経営だ。

ゴールシステムの特徴

ゴールドラット博士の理論に基づいた『ゴール・システム』は原典に忠実であり、しかも日本の経営風土に合致した『しくみ』です。企業内の誰でも容易に理解・実践でき、短期間に大きな成果を約束します。

一人一人が考える仕組みを構築します

ワークショップスタイルの活動で、考えることの有効性、意識変革の重要性を自然に認識します

現場からトップまで一気通貫の経営を実現します
スループット（入ってくるお金と出ていくお金の差額）を最大にすることが、意識変革の第一。スループット最大化のためには売れないものは開発しない、製造しない。シンプルな考え方は経営と現場をつなぎます。

素早い成果に結びつけます

バランスラインの落とし穴や、仕事を遅延させる無駄な安全余裕のメカニズムを体で体感、なぜ在庫が減らず、仕事が遅れるかが腑に落ちる。強みである改善文化を活かし変える部分 / 変えない部分を明確にし、改善を自分のミッションとします。

我々は問題解決のプロフェッショナル集団
弊社代表取締役 村上 悟、取締役 石田忠由はゴールドラット博士が主催するTOC - ICOからTOCプラクティショナーの資格認定を受けています。また弊社コンサルタント全員がジョナ（思考プロセスのアプリケーション）の資格を取得しています。ゴールシステムコンサルティングはTOCの最先端の技術を正しく提供しています。

TOCプラクティショナー

TOC - ICO (International Certification Organization) が行うTOCプロフェッショナルのための認定資格。DBR、調達物流、CCPM、TOCファイナンス、思考プロセス、全体アプローチの6つの資格認定から構成される。ゴールドラット博士はTOCをパブリックドメインと規定し、誰でも使うことができるとしている。しかしそれと同時に正確なTOC技術を普及するために、インプリメントに携わるプロフェッショナルの品質を保証している。

ジョナ21

ジョナはザ・ゴールに登場する、TOCコンサルタントの名前（ゴールドラット博士の分身）。現在ではTOC思考プロセス



の実践者としての資格。インターナル(社内使用)とエクスターナル(プロフェッショナル)ライセンスがあり、世界のTOCのコンサルタントは例外なくジョナの資格を持つ。

また我々は米国TOCファーム、アフィニタス・コンサルティンググループと提携しており、最先端のTOCノウハウを提供しています。ゴールシステムコンサルティングはTOCの手法に忠実であり、お客様の利益創出・問題解決のプロフェッショナル集団なのです。

お問合せ

お見積等に関しては、弊社までお問い合わせ下さい。
ゴールシステムコンサルティング株式会社
〒101-0047 東京都千代田区内神田1-2-15第三亀田ビル2F
TEL03-5282-2480(代表) FAX03-5282-2417
ホームページ <http://www.goal-consulting.com>
E-mail info@goal-consulting.com



TOCベーシックコースカリキュラム

1. 環境変化とTOC

1. TOC(Theory of Constraints)について
2. TOCを実践することによって、モノの流れを変革し、在庫が減り、利益が増える。
3. 従来の改善手法や評価システムとの相違点、類似点。
4. 既存の仕組みの良さを活かした新管理システムの構想、そのためのルール変更の基本的な考え方。

2. 日本の製造業これからのトレンド

1. 日本企業は、何をすべきか、失われた10年の意味、本当の実力と強さを勝ち取るために必要なこととは
2. なぜ変われなかったか、経常利益にこだわった経営、経理と経営がわからない役員、パラダイムシフトの先送り
3. 日本人(日本企業)の強さを活かすために、スループットを指標としたガラス張りの経営、在庫最小

3. TOC - DBR概論

1. DBRとは、在庫が減る、利益が上がる
2. 従来の生産システムの問題点……今までのバランスラインの落とし穴。
3. 実際の改善は5ステップで……どうやって進めるか、意識変革の重要性、ルール変更の要諦。

4. 思考プロセスと論理思考の重要性

1. 思考プロセスで会社が変わる、考えること、複雑なものの法則性を理解する(因果律)
2. 世の中に矛盾することなどない、論理思考と雲(対立)、矛盾統合の考え方

5. TOCは、何が違うか?

1. 変える部分 / 変えない部分 …… 変えない部分とは、知恵を出し続けるしゅみ、強みを残す。
2. 改善文化をそっくり活かす…… やってるマン体質からの脱却。
3. 真の現場主義経営へ …… 経営者と現場が議論出来る。経営と現場をつなぐ指標、それがスループット。

6. 企業総合力の向上(TOC導入企業の実例)

1. S社(半導体)長大な半導体のサプライチェーンをどうコントロールしてDBRを構築するか。
2. H社(全社活動)全社の生産戦略、(設備投資や開発戦略)をTOCの考え方を使得って変革する
3. 3つの満足(顧客満足 / 株主満足 / 従業員満足)と企業価値の最大化
4. ゴールシステムの特徴…… TOC理論の忠実な実践と考える仕組み、変革の仕組みの融合。
5. 夢をかたちにのし手伝い

日数 1日(実質5時間程度)

定員 50名まで





DBR実践コースカリキュラム

1. オリエンテーション

セミナーの進め方などについて

2. コストの世界からスループットの世界へのパラダイムシフト

TOCにおけるDBRの位置づけ

TOC-DBR開発の経緯

生産システムの改善手法としてのDBR

コスト管理の世界の盲点

部分最適から全体最適へ

3. DBRの基本的な考え方

スループット最大化の生産

TOCスケジューリングの特徴

行進のアナロジー

隊列が乱れる

ドラム・バッファ・ロープとは

生産のゆらぎ

ダイスゲーム（グループ演習）

4. 継続的改善の5ステップとDBRシステムの構築

DBRと継続的改善の5ステップ

制約条件を見つける

制約条件を徹底活用する

制約条件以外を制約条件に従属させる

制約条件の能力を向上させる

惰性に注意して繰り返す

5. バッファマネジメント

バッファの必要性と意義

バッファ長の設定方法

6. DBRスケジューリングの特徴

固定バッファと可変バッファ

DBRでのスケジューリングのロジック

ダイナミックバッファでのバッファマネジメント

7. スループット最大化のプロダクトミックスの考え方

スループット最大化のプロダクトミックス計画立案手順

PQ工場の演習

日数 2日(初日9:00~19:00 第二日目 9:00~17:00)

定員 24名まで

対象 主に工場、生産管理、生産技術などのスタッフ、管理者、役員

注)1日での開催も可能、その場合には、ダイナミックバッファは説明いたしません。

思考プロセスコースカリキュラム

1. 環境変化とTOC

- TOCとは何か
- TOCの全体像の復習
- 導入として、日本の製造業の社会的、経済的現状、問題点を確認する

2. なぜ思考プロセスなのか

- 誕生の背景と歴史
- 具体的な効果
- 思考プロセスについて、その背景と発展系譜を紹介する。
- アメリカでの思考プロセス適用による改革事例

3. TOC改善ストーリー企業のゴールは何か

- 企業のゴールは何か
- グループ演習 企業のゴールは何か？今までの活動や取組み方とどう違うのか
- グループ演習により、今までの活動や取組み方の違いを、
- ケーススタディを通し理解を深める

4. 論理的な思考方法とCRT(現状問題構造ツリー)とは

- TPにおける手段と目的、因果関係について理解する。
- 問題の構造化について事例を通じ演習する。
- 現状問題構造ツリー、未来問題構造ツリー、前提条件ツリー、移行ツリー作成演習

5. 中核問題の特定と二律背反

- 中核問題に潜む問題の裏と表を理解する
- 対立解消図(Conflict Resolution Diagram)とブレイクスルーアイデア
- 発想法についてもいくつかのパターンを用意し、演習する。
- 変化を起こし、実施するシステム改善の思考で実行計画を策定する。

6. 実践課題による総合展開案作成

- TPブレイクスルー法、3EC法による総合演習

日数 2日(初日9:00~19:00 第二日目 9:00~17:00)
定員 24名まで
対象 特になし(対象層によって演習・テーマはご相談に応じます)





スルーブット会計コースカリキュラム

1. **オリエンテーション**
セミナーの進め方など

2. **環境の変化**
評価システムの重要性
環境の変化

3. **TOCの概要**
TOCの考え方、営利企業の目的（従業員、顧客、株主3つの満足）
TOCの構成、DBR・思考プロセス

4. **TOCの評価システム**
財務業績（内部）評価尺度、3つの尺度（NP、ROI、CF）
顧客（外部）焦点の評価尺度、在庫・リードタイムと経営指標

5. **標準原価システム**
標準原価システムの問題点、財務会計が引き起こす誤った意思決定について
状況の変化、右肩上がりは続かない

6. **スルーブット会計**
スルーブットの考え方
T・I・O Eの定義
製品の選択、PQ製品分析演習
スルーブットをベースにした管理会計の構築

7. **スルーブット分析**
マーケティング視点からのスルーブット
ニーズとシーズ
コアコンピタンス
真の制約条件は

8. **様々な評価尺度**
顧客、競合に焦点を当てた評価尺度

日数 1日(9:00～17:00)

定員 24名まで

対象 主に工場スタッフ、会計担当者、経営企画、マーケティング部門のスタッフ、管理者、役員